

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：37112

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22720227

研究課題名(和文) 日本・韓国・中国の国際語としての英語学習者の特徴的文法と理解度に関する比較研究

研究課題名(英文) Comparative Study of the Characteristic Grammar of L2 English Learners in Japan, South Korea, and China and Mutual Intelligibility

研究代表者

岡裏 佳幸(OKAURA, Yoshiyuki)

福岡工業大学・社会環境学部・准教授

研究者番号：00389397

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円、(間接経費) 630,000円

研究成果の概要(和文)：日本人英語学習者、韓国人英語学習者、中国人英語学習者の英文ライティングには、語順の誤りは若干見受けられたが、これらの誤りと母語の語順との関連は認められなかった。国際的理解度については、誤解が生じるケースが見られたが、英文ライティングのテーマである各国の文化についての知識の欠如と、今回の研究対象とした英語学習者の英文内容理解力が劣っていたことも、理解度が低くなった原因のひとつと考えられる。

研究成果の概要(英文)：Although we have found out some errors in word orders in English writings by Japanese, Korean, and Chinese L2 learners of English, but we have not recognized the relation between these errors and the word orders of Japanese, Korean, and Chinese languages. As for international intelligibility, we have found misunderstandings among these L2 English learners. The main reason for this is that L2 English learners have little knowledge of the culture of each country, which is the topic of the English essay, leading to the less international intelligibility. Moreover, the English proficiency of L2 learners is generally fundamental or intermediate, and therefore their lack of understanding of English contents is regarded as another reason for the less international intelligibility.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：国際的理解度 文法的特徴 英文ライティング 日本人英語学習者 韓国人英語学習者 中国人英語学習者

1. 研究開始当初の背景

最近の日本の早期英語教育においては、文法能力 (grammatical competence) が軽視される傾向にある。しかしながら、Canale, M., & Swain, M. (1980) は、コミュニケーション能力 (communicative competence) を構成する能力として、談話能力 (discourse competence)、社会言語学的能力 (sociolinguistic competence)、方略的能力 (strategic competence) とともに、文法能力を位置づけている。コミュニケーション能力における文法能力の重要性に主眼を置いた、科研費若手研究(B)による研究課題(平成19~21年度、課題番号19720150)により、日本人英語学習者の特徴的な文法の誤りを分析した。その結果、主語と動詞の一致、現在完了形と過去形などの動詞に関する誤りの他に、母語である日本語の影響を受けたと思われる誤りも見受けられた。なお、ここでの誤りとは、標準英語 (Standard English) (Quirk et al. (1985)) を判断基準とするものである。

しかしながら、Honna, N. (2008)、Kachuru, Y. (2008) らが指摘しているように、様々な英語の変種 (English variation) がコミュニケーションに用いられている現在の状況を鑑みると、今後の日本の英語教育において、world Englishes の観点は不可欠である。Kirkpatrick, A., Deterding, D., & Wong, J. (2008) は、world Englishes の一例として、香港英語の国際的理解度 (international intelligibility) (Nelson, (2011)) に関する研究を公表している。そこで、world Englishes の観点から、上述の科研費若手研究(B)の研究課題をさらに拡大、発展させ、日本・韓国・中国(内モンゴル自治区、香港特別行政区を除く)のEIL学習者の文法の特徴について研究するという考えに至った。

2. 研究の目的

本研究の目的は、アジア諸国における国際語としての英語 (English as an international language, EIL) 学習者の特徴的な文法について明らかにするとともに、各国のEIL学習者の特徴的な文法に対して、他の東アジア諸国におけるEIL学習者が示す国際的理解度を検証することである。より具体的には、東アジアの日本・韓国・中国のEIL学習者の特徴的な文法を解明し、文法性判断タスクなどによって、相互の英文ライティングに対する国際的理解度を比較研究することである。

第二言語習得理論の分野において、本研究目的の学術的特色、独創性は次の3点にあると考えられる。

第1に、日本・韓国・中国のEIL学習者の特徴的な文法を比較研究し、相互の特徴的な文法に対する国際的理解度を解明しようとする点である。当然のことながら、従来の日本の英語教育においては、標準英語が唯一の基準

とみなされていたが、本研究においては、標準英語からの逸脱をすべて誤りとして処理するのではなく、標準英語から逸脱した各国の特徴的な文法が、相互にどの程度、理解されるのかを解明することを試みる。

第2の特色は、world Englishes の観点を採用していることである。世界中でますます多くの人々が英語でコミュニケーションを図るようになるにつれて、ますます多くの英語の変種が生まれている。日本英語、韓国英語、中国英語なども、その例である。より言語使用の現実に即した研究を遂行するためには、world Englishes の観点を欠くことはできない。国際的理解度の概念とあわせて、world Englishes の観点は、今後の日本の英語教育に示唆を与える可能性を秘めている。これまでの英語教育では、標準英語に即した厳密な文法性を重視されてきたが、英語の使用環境が激変し、英語の非母語話者同士が英語によるコミュニケーションを行ったり、異文化に接触したりする機会がますます増えることが予測される。このような時代において、国際的理解度の概念、world Englishes の観点に基づいた英語教育が重要な役割を演じることを念頭に置く必要がある。

第3の特色として、日本・韓国・中国のそれぞれの母語による影響に着目していることが挙げられる。英語の基本語順 (SVO, SVC) と中国語の基本語順がほぼ同じであるのに対して、日本語と韓国語の基本語順は SOV, SCV である。それゆえ、日本・韓国のEIL学習者と中国のEIL学習者とでは、異なる文法的特徴を示すのではないかと予測した。

3. 研究の方法

本研究の方法は、概ね以下の7点に集約することができる。

第1に、国際語としての英語、第二言語習得理論、教授法、文法・語法、英語教育学、テストング等、多角的な観点から、本研究を遂行する必要があるため、これらの分野に関する文献・資料等の収集を行った。とりわけ、平成23年度のカナダ・トロント大学での在外研究の際に、John P. Robarts Research Library, Ontario Institute for Studies in Education Library において、有益な文献・資料を収集することができた。

第2に、上記の文献・資料などをもとに、データ収集用アンケートを作成した。回答時間、回答者への負担等を考慮して、英語学習歴、英語学習環境、英語圏への滞在歴など、アンケートに含む項目数を必要最小限にとどめるようにした (Dörnyei, (2003), Dörnyei, (2007))。

第3として、本研究の核となる英文ライティングのタスクについて検討した。英語学習者が英文ライティングのタスクに取り組む際に、辞書や語彙リストの使用によって、ライティングが促進されると考えられている (Weigle, (2002))。しかしながら、本研究

においては、辞書や語彙リストの使用を認めないこととした。特に、初級または中級レベルの英語学習者の場合、辞書や語彙リストを使用することに時間を割いてしまい、タスクに対する集中力を欠き、制限時間内にタスクを終えることができなくなる可能性が予測されたためである。それゆえ、本研究のデータ収集に用いるタスクの内容を、以下のようにした：

(1) Please write an English essay in one paragraph to explain three most important aspects of the culture of your country without using dictionaries or asking your teacher for advice within 40 minutes.

しかしながら、なかには語彙力の不足、英文構成力の不足により、十分に回答できない学習者も見られた。そのため、回答者がより適切な語句を選択し、十分なデータが得られるように、タスクへの取り組み方法を検討することが、今後の課題である(Cumming, (2010), Cumming, (2013))。

第4に、データ収集を効率的に行うための方法を検討した。その結果、本研究のデータ収集においては、研究代表者より各国の英語関連科目担当者にデータ収集用アンケートをEmailによって送信し、そこからそれぞれの受講者に転送、受講者が回答したアンケートをEmailに添付して、研究代表者に送信してもらう方法を採用した。インターネット環境によって、送信上のトラブルが発生した例もあった。このようなトラブルを未然に防ぐことが今後の検討課題である。なお、収集するデータは英語学習歴などの個人情報を含むため、本研究以外の目的に使用しないことを明示し、各国の英語学習者に同意を得た上で、アンケートに回答し、英文ライティングのタスクに取り組んでもらうこととした。

第5として、英文ライティングの分析を行った。分析の際に、world Englishesの観点から、コミュニケーションに支障をきたすレベルは別として、厳密には文法的(grammatical)ではないが、コミュニケーションに支障をきたさないレベルを容認可能(acceptable)とみなし、最終段階において採用する理解度判断テストの対象とした。なお、日本人英語(Japanese English)、韓国人英語(Korean English)、中国人英語(Chinese English)の特徴を考慮に入れて分析を行った。

次に、国際的理解度の判定を行った。日本人英語学習者、韓国人英語学習者、中国人英語学習者の書いた英文ライティングの中から、容認可能であるもの、すなわち、日本人英語、韓国人英語、中国人英語の特徴を残しており、標準英語を基準とした場合、文法的ではないが、コミュニケーションに支障をきたさない英文を国際的理解度の判定に用いることとした。

最後に、国際的理解度の判定テストを各国の英語学習者数名ずつを対象として実施した。対象者は、前述の容認可能な英文ライティングの著者の中から、選定した。そして、それぞれの英語学習者に、2名または4名の英文ライティングに関する理解度判定テストに回答してもらった。

4. 研究成果

最終年度である平成25年度において、継続的にデータ収集を行いながら、日本・韓国・中国の英語学習者の英文ライティングに見られる特徴を分析し、さらに、理解度確認テストによって、日本・韓国・中国の3カ国の英語学習者間における相互の国際的理解度の比較研究を行った。

まず英文ライティングには、それぞれの母語の影響を受けた語順が特徴として現れるものと想定していた。すなわち、日本人英語学習者と韓国人英語学習者の場合はSOV、SCVの語順、中国人英語学習者の場合はSVO、SVCの語順である。しかしながら、各国の英語学習者が書いた英文ライティングにおいて、語順の誤りは若干見受けられるものの、これらの誤りと母語の語順との関連は認められなかった。

次に、国際的理解度については、誤解が生じるケースが見られた。第1の原因としては、英文ライティングのテーマである各国の文化についての知識、すなわち異文化の知識が相互に欠如していたため、英文ライティングに対する理解度が低くなったものと考えることができる。さらに、今回の研究対象とした英語学習者のレベルが、概ね初級から中級であったため、英文内容理解力が劣っていたことも、国際的理解度が低くなったもうひとつの原因である。

なお、本研究期間終了後に開催された、Canada International Conference on Education 2014(2014年6月16日~19日、カナダ・ノヴァスコシア州)での口頭発表において、研究成果の一部を報告した。その際に、英語の母語話者が書いた英文ライティングとの比較研究を行うことも、英語を第二言語として学ぶ日本人・韓国人・中国人の特徴的文法を解明する上で有効な研究方法のひとつであるとの指摘があった。この点に着いては、本研究をさらに発展させ、「北米の大学で学ぶ日本人・韓国人・中国人の英文ライティングに見られる文法知識の特徴」(科研費基盤研究(C))の研究を進めていく上で、十分に配慮すべき重要な課題であると考えている。

参考文献

Canale, M., & Swain, M. (1980). Theoretical Bases of Communicative Approaches to Second Language Teaching and Testing. *Applied Linguistics* 1, 1, 1-47.

- Cumming, A. (2010). Theories, Frameworks, and Heuristics: Some Reflections on Inquiry and Second Language Writing. In Silva, T., & Matsuda, P. K. (Eds.), *Practicing Theory in Second Language Writing* (pp.19-47). Indiana: Perlor Press.
- Cumming, A. (2013). *Multiple Dimensions of Academic Language and Literacy Development*. Oxford: Oxford University Press.
- Dörnyei, Z. (2003). *Questionnaire in Second Language Research: Construction, Administration, and Processing*. New Jersey: Lawrence Erlbaum Associates.
- Dörnyei, Z. (2007). *Research Methods in Applied Linguistics*. Oxford: Oxford University Press.
- Hinkel, E. (2002). *Second Language Writers' Text: Linguistic and Rhetorical Features*. New York: Routledge.
- Honna, N. (2008). *English as a Multicultural Language in Asian Contexts: Issues and Ideas*. Kuroshio Publishers.
- Kirkpatrick, A. (2007). *World Englishes: Implications for International Communication and English Language Teaching*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Kirkpatrick, A., Deterding, D., & Wong, J. (2008). The International Intelligibility of Hong Kong English. *World Englishes*, 27, 3, 359-377.
- McKay, S. L. (2002). *Teaching English as an International Language*. Oxford: Oxford University Press.
- Nelson, C. L. (2011). *Intelligibility in World Englishes: Theory and Application*. New York: Routledge.
- Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G., & Svartvik, J. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. New York: Longman.
- Swan, M. (2005). *Practical English Usage (Third Edition)*. Oxford: Oxford University.
- Weigle, S. C. (2002). *Assessing Writing*. Cambridge: Cambridge University Press.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

- (1) Okaura, Yoshiyuki. *The Functions and Uses of Nouns and Verbs in the Essays by L2 Learners of English in Japan. In The Proceedings of Canada*

International Conference on Education 2014.

- (2) Okaura, Yoshiyuki. English Grammatical Construction of L2 Japanese University Students and Pedagogical Grammar for English in Japan. In *The Proceedings of 2011 JACET 50th Memorial International Convention.*

〔学会発表〕(計2件)

- (1) Okaura, Yoshiyuki. *The Functions and Uses of Nouns and Verbs in the Essays by L2 Learners of English in Japan.* Canada International Conference on Education 2014. June 17th, 2014. Cape Breton University, Sydney, Nova Scotia, Canada.
- (2) Okaura, Yoshiyuki. *English Grammatical Construction of L2 Japanese University Students and Pedagogical Grammar for English in Japan.* August 31st, 2011. 2011 JACET 50th Memorial International Convention. Seinan Gakuin University, Fukuoka, Japan.

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

- (1)研究代表者
岡裏佳幸(OKAURA, Yoshiyuki)
福岡工業大学・社会環境学部・准教授
研究者番号：00389397

- (2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし